







大浦 周	近現代美術	
おおうら いたる	表現主義、ドイツ近現代美術	2013年から2021年まで近代美術館に勤務し、主に現代美術の展覧会を企画しました。これまで担当した主な企画展は「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」(2018年)、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(2020年)、「ボイス+パレルモ」(2021年)など。今年度は本庁の文化資源課にいます。
		


大越 久子	近現代美術	
おおこし ひさこ		<p>埼玉県立近代美術館の開館当初から学芸員を務め現在に至ります。「ニッポンの風刺」、「呼吸する風景」、「椅子のデザイン」、「ひとすじの道－高橋久雄」、「小村雪岱とその時代」など、担当した企画展は近代から現代まで多ジャンルにわたり、美術に軸足を置いた多様な表現行為に関心をもっています。現在は教育・広報担当チームに所属し、企画展や美術館広報に携わっています。著書に『小村雪岱－物語る意匠－』。</p>
	小村雪岱と同時代の文化	


菊地真央	近現代美術	近代美術館に勤めて6年目になります。今年度は企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」を担当します。収蔵品については、日本画・工芸・資料などを担当しており、今後近代日本画の展示機会を積極的に増やしていきたいと考えています。
きくちまお		
	日本の近代美術	


五味 良子	近現代美術史	
ごみ りょうこ	視覚文化交流史	現在は常設展・収蔵品担当に在籍しています。企画展ではこれまでにキネティック・アート(2015)、日本におけるキュビズム(2016)、版画の景色(2017)、浦沢直樹展(2018)、美男におわす(2021)などに携わりました。
		

<p>佐伯 綾希 さえき あやき</p>	<p>近現代美術</p>	<p>2020年から近代美術館で勤務し、企画展担当に所属しています。これまでに、「美男におわす」(2021)、「シ アトル→パリ 田中保とその時代」(2022)などの企画展に携わりました。また、イタリア未来派を中心に研究 してきた経験を活かし、MOMASコレクションでは「色彩と軌跡—ジャコモ・バッラ《進行する線》を起点に」 (2021)、「デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから」(2022)を実施しました。</p>
	<p>イタリアの近代美 術</p>	<p>本年度は、20世紀美術における椅子の表象に着目した企画展「アブソリュート・チェアーズ」、飯能市出身の 若手作家・永井天陽を紹介する「アーティスト・プロジェクト#2.07」、およびMOMASコレクション「チェアーズ— 椅子の美術館」を担当します。</p>

<p>鳴原 悠</p>	<p>近現代美術</p>	
<p>しぎはら はるか</p>	<p>近現代美術</p>	<p>2015年より近代美術館に勤務し、常設展・収蔵品担当を経て、2019年より企画展担当に所属しています。近代の日本の美術やデザイン、近現代の博物館の歴史や制度などに関心があります。</p>
	<p>日本近現代美術</p>	<p>これまで、「扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」(2022年)、「桃源郷通行許可証」(2022年)などの企画展に携わりました。今年度は企画展「イン・ビトウィーン」のほか、視覚障害のある方へ向けた鑑賞プログラムを担当しています。</p>

平野 到	近現代美術	<p>現在は常設展・収蔵品管理を担当しながら、学芸業務を総括する仕事をしています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚—もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「浮遊するデザイナー—倉俣史朗とともに」(2013)、「日本におけるキュビズム」(2016-17)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「インポッシブル・アーキテクチャー」(2019)などの企画展を担当しました。また、2021年度は、うらわ美術館と共同開催した企画展「大・タイガー立石展—世界を描きつくせ！」にも携わりました。</p> <p>新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。</p>
ひらの いたる	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	
		

吉岡 知子	近現代美術	
よしおか ともこ	日本近代美術	<p>2008年より近代美術館に勤務し、教育局文化資源課勤務(2020-21年度)を経て、現在は近代美術館で企画展の統括の仕事をしています。</p> <p>主な関心領域は日本近代美術、地域美術史で、これまでに「原田直次郎展」(2016年)、「森田恒友展」(2020年)などの企画展を担当しました。</p> <p>今年度は企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」、「アブソリュート・チェアーズ」に副担当として携わっています。</p>
		

佐藤 あゆか	現代美術	
さとう あゆか		
	戦後のアメリカ美術	<p>2022年度より近代美術館に勤務しています。常設展・収蔵品担当として、コレクションの管理や作品貸出の手続きなどを行っています。今年度は、MOMASコレクション「魅惑のリアリズム」「さいきんのたまもの」を担当するほか、「ミュージアム・シアター」の開催に携わります。</p> <p>展示やイベントの企画・実施を通して、より多くの人に現代美術の面白さを伝えていきたいと思っています。</p>